

令和 7 (2025) 年度

# 運営に関する計画

《最 終 評 価》



大阪市立丸山小学校

令和 8 年 2 月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**◎ 学力・体力等について

○国語科では、令和3年度全国学力・学習状況調査における「知識・技能」の正答率は72.6%と全国平均より4.3P上回った。「思考力、判断力、表現力等」の正答率は61.1%と、1Pと下回っており、特に「書くこと」の問題に課題がある。

○算数科では、令和3年度全国学力・学習状況調査における「知識・技能」の正答率は76.0%で全国平均より1.9P上回り、「思考・判断・表現」の正答率も68.6%で、3.5Pと上回った。しかし、「測定」の問題については全国平均より1.8P下回っており課題である。

○3～6年生の学力経年調査の結果、国語科算数科ともに、4学年中3学年が大阪市平均を1～3P下回った。特に、「活用」問題に弱い傾向がある。

○令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、男子は体力合計点において全国平均を上回ったが、女子は全国平均を2.33P下回った。男女ともに「長座体前屈」「反復横とび」「20mシャトルラン」「ソフトボール投げ」に課題がある。

○令和3年度末の学校教育アンケート「子どもは『運動することが好き』と思っている」の項目において、肯定的な回答する保護者の割合は83.9%であったが、「子どもは学校の体力向上の取組に意欲的である」と回答する割合は65.3%と低い。意欲的に体力向上に取り組める工夫をしていく必要がある。

○英語活動を充実させるため、ネイティブ講師との連携を深めたり、週2回のモジュールでのイングリッシュタイムを設定したりしてきた。学校教育アンケート「子どもは、英語活動は楽しいと思っている」の項目において、肯定的な回答する割合は76.6%であった。さらに英語活動の楽しさを味わわせるよう指導や教材の工夫をしていく。

○ICT機器の活用についても学校教育アンケート「子どもはタブレットなどICTを使った授業について『わかりやすい』『楽しい』」の項目において、肯定的に回答する割合が83.8%であった。さらに情報活用能力を高めていく。

○デジタル教科書やデジタルドリルなどを活用した授業・指導法の研究、教育機器の整備・補強をさらに行い、授業力向上につなげていく。

○きめ細かな特別支援教育等の深化充実を図る。

◎ 生活面等について

○学級活動、異学年交流活動・学年活動等に積極的に取り組んだことで、自他のよさを認め合うことができる児童が増え、学校教育アンケートの「子どもは『自分にはよいところがある』と思っている」の項目では肯定的な回答の割合が87.6%となった。

○コロナ禍であまりできなかった地域の方々やゲストティーチャーの招聘、町探検や校外学習、社会見学、植物(なにわの伝統野菜も含む)の栽培・収穫などの体験活動を積極的に行っていく。令和3年度末の学校教育アンケート「自分の地域や大阪のことが好きと思っている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は86.3%となり、コロナ禍以前より5.5P下がっている。

## 現状と課題

○3～6年生の学力経年調査の「学校のきまりを守っていますか」の項目について、92.4%の児童が肯定的な回答をしている。今後も安全・安心な学校づくりを行っていくためにも、学習規律や学校生活のルールを徹底していく。

### ◎ 地域・保護者との連携について

○本校の教育活動の情報発信として、「学校だより」と「学校ホームページ」を中心に行ってきた。令和3年度末の学校教育アンケート「学校は学校教育についてわかりやすく伝えている」の項目において、肯定的な回答が84.6%であった。

今後も、「学校だより」や「学校ホームページ」のさらなる活性化を図り、学校教育の取り組みや児童の様子等を幅広く伝達し、理解を得るようにする。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

◎令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R4 83.3 R5 82.2 R6 80.3 R7 75.9)

◎令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。(R4 83.3 R5 89.0 R6 81.8 R7 81)

◎令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。(R4 75.8 R5 82.2 R6 80.1 R7 81)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

◎令和7年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率の対全国比(国語)を1.00以上にする。(R4 1.01 R5 0.95 R6 1.03 R7 1.02)

◎令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を42%以上にする。(R4 33.3 R5 41.1 R6 38.3 R7 41)

◎令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)」やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を69%以上にする。(R4 59.2 R5 68.4 R6 69.8 R7 67.05)

### 【学びを支える教育環境の充実】

◎令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を80%にする。(R6 48.6 R7 82.4)

◎第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を令和7年度末に72%以上にする。(R4 46.7 R5 70.0 R6 61.29 R7 60)

◎令和7年度の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。(R4 77.3 R5 77.5 R6 75.2 R7 68.25)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

◎小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。(R6 平均80.3 R7 81.97)

◎小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。(R6 平均81.8 R7 82.77)

◎小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。(R6 平均80.1 R7 79)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

◎小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

(R6 3年 1.02 4年 1.04 5年 1.06)

(R7 4年 0.98 5年 1.09 6年 1.04)

◎小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を40%以上にする。(R6 平均38.3 R7 41)

◎小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)」やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。(R6 平均69.8 R7 66.5)

### 【学びを支える教育環境の充実】

◎授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(R6 48.6 R7.1月 96.3)

◎第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を70%以上にする。(R6 61.29 R7.1月 60)

◎小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。(R6 平均75.2 R7 68.25)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安心・安全な教育の推進】

- ・「学校へ行くのは楽しい」「いじめはどんな理由があってもいけないこと」については、目標どおり達成できた。「自分にはよいところがある」については、年度目標を2ポイント下回ったが、児童アンケートでは昨年度より3ポイント上回り自尊感情を高めることができた。
- ・学校のきまりを守っている児童は多いが、一部の児童が基本的なルールを守れていない。教職員が学校のルールを再確認し、指導を徹底する。また、定期的に学校のルールを守れているか確認し振り返る機会を設ける。
- ・たてわり班活動の内容や取組の充実を図り、互いに尊重し合える仲間づくりを行う。
- ・高学年になると自尊感情が低くなる傾向があるので、肯定的な声かけを続けていく。また、自己肯定感、自己有用感を高める取組を意図的に設定していく。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・学力経年調査における国語の平均正答率は対全国比では平均値を上回ったが、経年比較するといずれの学年も前年度より下回った。算数科・国語科の「基礎」の区分における平均正答率は、国語は目標値を上回ったが、算数は0.65ポイント下回った。
- ・ICT 機器や学習アプリの活用、休み時間や放課後の個別学習支援により、基礎・基本の学力を身に着けることができた。今後は取組の内容を整理し、質を高めていく。
- ・話し方、聞き方の指導の指導を今後も継続し、ペアやグループで話し合う活動が深い学びへとつながるように授業づくりを工夫する。
- ・楽しみながら運動に親しむ児童が増えてきている。今後は、もっと多くの児童が主体的に体を動かす環境づくりをしていく。特に休み時間の遊びについて、実施内容や場の工夫をしていく。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、昨年度は年間授業日の52.1%であったが、本年度12月現在96.9%で目標を大きく上回って達成した。
- ・毎日の学校生活や授業中での学習者用端末を積極的に活用することができた。今後は、端末の効果的な活用方法や活用場面を考え、宿題の配信など家庭学習での活用の仕方も練っていく。また、教職員のICT機器活用能力を高める研修をすすめていく。
- ・教員の時間外勤務時間の改善を図ることができなかった。業務の平準化、ICT機器の効果的な活用、校務分掌や会議の見直しなどを行い、教職員の負担軽減を図る。
- ・「読書をするのが好き」について、肯定的に回答する児童を増やすことができなかった。特に、高学年は読書好きの児童の割合が低く、好きと嫌いの二極化している。図書館ボランティアさんによる読み聞かせ、図書館まつり、学級文庫の入れ替え、図書館開放、読書の表彰、読書タイムの工夫など、意欲的に読書に親しむ取組や環境づくりは行ってきた。今後は、図書のパリエーションを増やしたり、本の紹介をしたりして読書の幅を広げていく。

(様式2)

## 大阪府立丸山小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>◎小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。(R6 平均 80.3 R7 81.97)</p> <p>◎小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。(R6 平均 81.8 R7 82.77)</p> <p>◎小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。(R6 平均 80.1 R7 79)</p>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「学校安心ルール」「学校生活のきまり」の徹底、心の天気や相談機能の活用などを行い、学校がより安全で安心な場所であるように環境づくりに取り組む。</p> <hr/> <p>指標 児童アンケートの「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(R6 平均 87.9 R7 87.4)</p>	<b>B</b>
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童集会、全校たてわり遠足、丸山カーニバルを実施して、たてわり班活動の活性化を図り、異学年交流を深め、違いを認め合い助け合うなかまづくりに取り組む。</p> <hr/> <p>指標 児童アンケートの「他の学年の友だちと楽しく過ごすことができている」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を84%以上にする。(R6 平均 83.3 R7 88.1)</p>	<b>A</b>
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>達成感を感じたり自分や友だちの良さを認め合う取組を行ったり、児童同士や教職員からの肯定的な声かけを続けて行ったりして、自尊感情を高める。</p> <hr/> <p>指標 児童アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。(R6 76.2 R7 80.8)</p>	<b>B</b>

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 廊下を走る・名札や帽子の未着用など基本的なルールを守れていない児童が一部いる。また、学級や学年によって決まりが違うこともあるため、全体で統一した指導が必要である。  
心の天気は各学級で取り組んでいる。
- ② 児童集会や全校遠足、たて割り班活動などを通して異学年交流が進んでいる。ただ、一部活動に消極的な児童もいるため、関わり方に課題が残る。
- ③ 日々の学習や学校行事を通して互いの良さに気づき、認め合う経験を重ねることで自己肯定が高められている。ただ、自己肯定感が低い児童も一定数いるため継続的な支援が必要。高学年になると低くなる傾向がある。

次年度への改善点

- ① 学年によって決まりが違うことがあるので統一した決まりを再確認する。また、定期的なきまりを守れているか、どんなきまりがあるかを振り返る機会を設ける。
- ② 今後もたて割り班活動を続け、互いに尊重しあえるように指導を続ける。
- ③ 個々の良さに気づき肯定的な声掛けを続けていく。また、自尊感情が低い子どもに対して、個別の声掛けや小さな成功体験を意図的に設定し学級全体で認め合える雰囲気づくりをする。

大阪市立丸山小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>◎小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 (R6 3年 1.02 4年 1.04 5年 1.06) (R7 4年 0.98 5年 1.09 6年 1.04)</p> <p>◎小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を40%以上にする。(R6 平均38.3 R7 41)</p> <p>◎小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)」やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。 (R6 平均69.8 R7 66.5)</p>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業における個別最適な支援、タブレット端末の効果的な活用、ナビマやスタディサプリの利用、休み時間や放課後での個別学習支援などに取り組み、基礎・基本の学力を身につけることができるようにする。</p> <p>指標 小学校学力経年調査における算数科・国語科の「基礎」の区分における平均正答率を算数72%、国語74%以上にする。 (R6 算数71.0 国語73.4) (R7 算数71.35 国語75)</p>	<b>B</b>
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p><u>各教科で話し合いの仕方、話し方の話型、聞き方の指導をし</u>、計画的・意図的にペアやグループで話し合う活動を行い、互いの考えを交流し合い、自分の考えを深めたり広げたりすることができる授業を構築する。</p> <p>指標 児童アンケートにおける「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を77%以上にする。 (R6 76.2 R7 82.0)</p>	<b>B</b>
<p>取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>運動量を確保した授業、なわとび週間やかけあし週間など体育的行事の計画的実施、休み時間の運動遊び、体育館開放を効率よく行うなど、運動に親しみ体力の向上に努める。</p> <p>指標 児童アンケートの「進んで休み時間に体を動かして遊んだり、耐寒かけ足やなわとび週間に取り組んだりしましたか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。 (R6 79.3 R7 80.3)</p>	<b>A</b>

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① ICT 機器や学習アプリを活用した個別支援により、基礎・基本の定着に向けた取組が各学年で進められた。活用の場面も広がり、児童が自分のペースで学習に取り組む姿が見られるなど、一定の成果が表れている。また授業時間だけでなく、休み時間や放課後を活用した個別学習支援を行うなど、実態に応じた対応も進めてきた。
- ② 話し方・聞き方の指導を大切にしながら、ペアやグループでの学習活動を積み重ねてきた。その中で、自分の考えを伝えようとする姿や、友達の意見を受け止めようとする姿が見られ、学び合いの土台が育ちつつある。
- ③ 体育的行事や日常的な外遊びの機会を通して、体を動かすことに前向きに取り組む児童の姿が多く見られた。楽しみながら運動に親しむ様子が広がっている。

次年度への改善点

- ① ICT 活用については、各学年の実践を共有しながら、ねらいをより明確にし、取組の質を高めていく。また休み時間や放課後に行っている個別学習支援については、対象児童や取り組み内容を整理し必要な児童に確実に支援が行き届くようにする。
- ② 話し合い活動については、目的や振り返りを意識した指導を積み重ねることで、より深まりのある学びへとつなげていく。
- ③ 運動面では、これまでの取組を基盤としながら、今よりもっと多くの児童が主体的に体を動かせる環境づくりを進める。特に休み時間の遊びについては、参加する児童が広がるよう実施内容や場の工夫を行っていく。

大阪市立丸山小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>◎授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 (R6 2月 48.6% R7 1月 96.3)</p> <p>◎第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を70%以上にする。 (R6 2月 61.29 R7 1月 60)</p> <p>◎小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。 (R6 平均 75.2 R7 68.25)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>日々の学校生活や授業中での学習用端末の積極的活用(心の天気、デジタルドリル、協働学習支援ツールなど)、学習用端末を持ち帰っての家庭学習の取組、学習動画コンテンツの利用など、ICTを効果的に活用した学習の充実を進め、情報活用能力の向上を図る。</p> <hr/> <p>指標 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 (R6 52.1 R7 1月 96.3)</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>校務分掌の整理、会議の内容の検討と精選、時間の設定、授業時数や学校行事等の見直しを行い、働きやすい風通しの良い職場環境を整備する。</p> <hr/> <p>指標 学校園における働き方改革推進プランに掲げる教員の勤務時間に関する基準1(1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない)を満たす教員の割合を70%以上にする。 (R6 67.74 R7 1月 60.0)</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <p>児童が読書を楽しむために読書タイムを工夫する。また、図書委員会、学校図書館司書、図書館ボランティアと協力して図書館開放の工夫、読書カードや表彰、学級文庫の入れ替え、クラス貸し出しなどを行い、意欲的に読書に親しむ児童を増やす。</p> <hr/> <p>指標 年度末の児童アンケートの「読書することが好き」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。 (R6 75.3 R7 74.7)</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①1年生は、新学習者用端末配備のため、2学期からの使用となったが、毎日の心の天気入力やNavimaを活用しての学習を行っている。他の学年も心の天気の入力や連絡帳配信は習慣化された。Navimaやスタディーサプリを使って、学習の定着も行っている。

また、授業で自分の考えをまとめたり、発表したりできるように取り組んだ学年もある。

②校務分掌や会議、学校行事の見直しにより、個別の業務をする時間を確保できるようになってきている。しかし、業務の偏りや繁忙期の負担はまだ残っている。

③図書ボランティアさんの読み聞かせや図書館祭り、図書委員会の取り組み、学級文庫の入れ替え、読書タイムや図書館活用の工夫、国語科の関連図書の並行読書などにより、様々な本に親しみ、読書を積極的に取り組む児童が増えた。

また、読書記録は、児童の読書意欲の向上につながっている。

次年度への改善点

①4年生以外の端末がChromebookに変更になったので、端末の効果的な活用方法や活用場面を考え、学習効果を高める活用を模索していく。また、教員間で使用して効果があるアプリを共有し、よいものは全体で使用する。3年生以上は端末の持ち帰りを行っているので、宿題配信などの家庭学習で用いるように活用方法を考える。

②校務分掌や会議の見直しを今後も行い、教職員間で協力して業務を進める。業務の平準化やICTによる効率化を行い、教職員の負担軽減を図る。

また、メンター研修などで放課後の時間の使い方を学ぶ機会を設けてもよいのではという提案があった。

③高学年は、読書に親しむ児童とそうでない児童の二極化が起こっている。高学年が読書に親しめるようにペア学年での読み聞かせや国語科授業に関連した並行読書などの活動を取り入れていく。

また、本のバリエーションを増やしたり、本の紹介をしたりして、読書の幅を広げる取り組みを行っていく。